

今村復興相の暴言に怒り

“謝って終わり”でない

原告団が
申し入れ

東京電力福島第1原発事故で自主避難を余儀なくされた被害者にたいして今村雅弘復興大臣が「本人の責任だ」「裁判でもなんでもやればいい」などと

国の責任を放棄する暴言を述べたことに怒りの声が広がっています。

原発被害者訴訟原告団全国連絡会は6日、「抗議して辞任を要求する」とする声明を出して、復興省に申し入れました。声明は、発

言の撤回と復興大臣の辞任、真の救済制度の設置を求めています。

原発問題住民運動全国連絡センター筆頭代表委員の伊東達也氏は、「謝っても、なかっただことにすることはできません。福島県民は長い間『福島に寄り添

って』という言葉が聞かされてきました。国や東電は心から言っていないのではないかと、いう思いがくすぶっていました。加害者という自覚が薄い。今回の発言は、国の責任者が本音をもろにぶつけた。謝って終わりにさせません」と述べています。

福島原発事故群馬訴訟の原告の一人、丹治杉江さんは「国や東電の加害責任を認めない

姿勢はそのままです。絶対に許すわけにはいきません」と抗議。

「群馬訴訟で前橋地裁判決は国と東電の責任を認めました。判決文を見てほしい、避難者の声を聴いてほしい。復興大臣は憲法に基づいて仕事をする立場にあります。辞任してほしい」と訴えました。